

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2012.09) 平成22年度:165.

看護師における職業性ストレス反応およびQOLに対するレジリエンスの影響

竹内香奈枝、望月吉勝

看護師における職業性ストレス反応および QOL に対するレジリエンスの影響

9階東ナースステーション ○竹内香奈枝
看護学科 望月 吉勝

【目的】

病院勤務の女性看護師の職業性ストレス反応および QOL に対するレジリエンスおよび他の因子の影響を明らかにすることを目的とする。

【方法】

概念モデル：米国立職業安全保健研究所の NIOSH 職業性モデルを参考に、属性やソーシャルサポートやレジリエンスがストレス反応や健康関連 QOL に影響を与えるという概念モデルを作成した。研究対象：北海道中央部の総合病院に勤務する女性看護師（師長を除く常勤看護師）398 名に調査票を配付、313 名（回収率 78.6%）から回収した。欠損値のある回答を除き、有効回答数は 291 名（有効回答率 73.1%）だった。調査方法：無記名自記式質問紙を各部署の長を通して配付し、各部署に設置した袋に回収する留め置き法により回収した。調査項目：属性、職業性ストレス簡易調査票、SF-8 日本語版（1 ヶ月版）、S-H 式レジリエンス検査で構成した。分析方法：ストレス反応下位尺度または SF-8 下位尺度を 50 パーセントタイルで二分し目的変数としたロジスティック回帰分析（変数減少法、尤度比）を実施し、オッズ比を算出した。説明変数として、年齢、看護師経験年数、社会的支援（上司／同僚／家族・友人の 3 項目）、レジリエンスの下位尺度（自己効力感、社会性の 2 項目）を投入した。倫理的配慮：対象とした病院の看護部長に研究計画書と調査票を提出し、研究協力の同意を得た。調査票に①調査票は無記名で個人が特定されない、②結果は統計的に処理される、③研究協力は自由意思である、④調査

票は研究終了後に全て裁断のうえ破棄することを明記した。調査票の回答・提出をもって研究協力の同意とした。

【結果】

ストレス反応下位尺度を目的変数としたロジスティック回帰分析：有意なオッズ比は、下位尺度「活気」に対し「上司からのサポート」1.20、「レジリエンス自己効力感」1.08 だった。

SF-8 下位尺度を目的変数としたロジスティック回帰分析：有意なオッズ比は、下位尺度「活力」に対し「上司からのサポート」1.32、「家族・友人からのサポート」1.27、「レジリエンス自己効力感」1.16 だった。下位尺度「心の健康」に対し「上司からのサポート」1.21、「レジリエンス自己効力感」1.10 だった。

【考察】

ストレス反応下位尺度「活気」と SF-8 下位尺度「活力」のいずれにおいても、「上司からのサポート」と「レジリエンス自己効力感」が有意なオッズ比であることから、「上司からのサポート」は仕事への意欲・やり甲斐へつながり、ストレス反応下位尺度「活気」、SF-8 下位尺度「活力」を高める方向に影響を与えられられる。また、高い自己効力感は自己を肯定し、仕事で困難があった場合も自分で問題解決できる力があると考えて仕事に向かうことができる。そのため、「レジリエンス自己効力感」がストレス反応下位尺度「活気」、SF-8 下位尺度「活力」を高める方向に影響したと思われる。